

阪南 2 区におけるアマモ養成活動の概要

CIFER・コアでは、事業 WG10 として、「海の生物のゆりかご」と称されるアマモ場の再生および拡大を目的に、底質が泥質である海域におけるアマモの生育技術の確立に取り組んできました。これまでに、東洋建設(株)と共同で実施した浮体式構造物を用いたアマモ養成実験や、NPO 法人大阪海さくらとの協働によるアマモ移植会を通じて、阪南 2 区においてアマモの育成が可能である一定の見込みを得ました。

成果を踏まえ、令和 6 年度より、多くの人々が参加しやすい手法の確立を目的に、簡便かつ低コストな方法として、東洋建設(株)のアマモ播種シートを活用、以下の 3 つの方法による育成を実施しています。

① 東洋方式

東洋建設(株)のアマモ播種シートに種子を播種し、不織布と砂で覆う方法

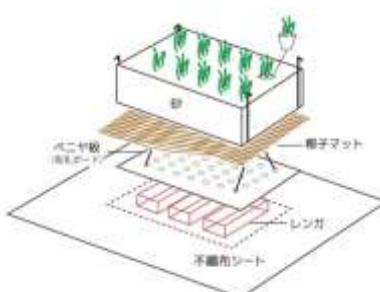


② ZABTON 方式

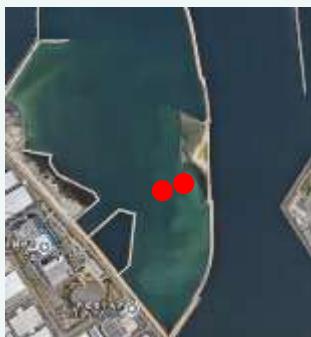
地下茎が海底に根付きやすいよう、不織布と砂のみを用いる方法

③ TAMATEBAKO 方式

陸上で苗の状態まで育成し、養成コンテナに移植した上で海底に設置する方法



令和 6 年 11 月には、①東洋方式および ②ZABTON 方式により、アマモの種を播種したシートを海底へ設置し、令和 7 年 3 月には ③TAMATEBAKO 方式によりアマモ苗を移植しました。3 月に実施した調査において、①②の播種シートから複数のアマモの発芽が確認され、今後のアマモ場養成活動における有望な成果となるものと考えています。



干潟中仕切堤の内外(●)に設置



11月 ①②の方式で作成・設置



3月 ③の方式で移植・設置



【3月調査】発芽を確認

11月に海底に設置した播種シートからアマモが発芽、成長していることが確認されました。

＜令和7年度の計画＞-----

令和7年度においては、事業規模の拡大を目指し、大阪府営二色の浜公園に自生するアマモから花枝を採取し、種子の確保を行うことで、さらなる展開を図る計画です。また、市民・企業・漁業者・博物館等、多様な関係者との連携を強化し、ブルーカーボン生態系の形成に向けた取り組を推進していきます。具体的な計画は以下のとおりです。

■ 助成金の獲得

事業推進のため、各種助成金の申請を進める。

■ アマモの花枝の採取・種子の選別

二色の浜においてアマモの花枝を採取し2か月ほど養生したのち、大阪市立自然史博物館友の会会長・外来研究員である鍋島靖信氏の指導のもと、花枝から種子を選別する。

■ 体験学習の実施

岸和田市の児童を対象に、アマモの種子選別作業を体験学習として実施する。広報および会場提供は、きしわだ自然資料館が担当する。

■ 種子の養生

採取した花枝は、阪南2区の護岸から垂下して養生する。また、きしわだ自然資料館でも水槽に入れて養生し、来場者の見学に供する。

■ アオサの撤去

岸和田市と連携し、海域の環境改善を目的としてアオサの撤去を実施する。撤去後のアオサについては、岸和田市が焼却処分を行う予定である。

本事業を通じ、アマモ場の造成およびブルーカーボンの推進を図り、持続可能な沿岸環境の形成に寄与してまいります。